

番号	9	事業名	防災・安全交付金(修繕)雪寒・凍雪害事業	市町村名	須坂市	路河川名	(国)406号	箇所名(ふりがな)	山の神(やまのかみ)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○ 事業区間は幅員狭小であり、また冬期、除雪によって有効な車道幅員が確保できず、年数回大型車の立ち往生による道路閉塞が発生し、幹線道路としての機能の麻痺が発生している。 また、計画区間は縦断勾配が急であるため、大型車等の速度が低下し交通の支障となるとともに、後続車の無理な追い越し等により事故が発生している。 ○事故や冬期の交通障害が毎年発生しており、地元須坂市から抜本的な対策を強く望まれていた。 ○事業着手前の平成19年9月25日に地権者である財団法人仁礼会に計画の主旨を説明し、事業実施の了解を得ている。</p>						②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
								○河川への直接的な影響がないよう谷側の土留構造物を設置している。	B	
事業目的	<p>○当該区間は北信地方と東信方面を結ぶ幹線道路であるとともに、上田市菅平口から国道144号に接続し、群馬県へ通じる物流路線となっている。また、県内有数の観光地でもある菅平高原へのアクセス道路として、冬期間もスキー客等の利用により交通量が多い。 ○堆雪帯を設置し、冬期積雪時における車道の有効幅員を確保することにより、安全で円滑な交通を確保する。</p>						③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
								○堆雪帯の設置により、大型の除雪ドーザー等による除雪作業が、容易となった。 (除雪作業時間の短縮・一般車両との接触の減少・作業の安全性の向上)	B	
事業概要	当初工期	H20～H23	費用対効果(当初時)	-	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	最終工期	H20～H25	費用対効果(評価時)	-	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	堆雪帯設置工 L=460m W=6.0(9.5)m			350,000	210,000		56,000	84,000	
	最終事業実績(主な工種)	堆雪帯設置工 L=460m W=6.0(9.5)m			346,372	207,823		55,419	83,130	
事業期間の延長・短縮理由と分析	○現道の幅員が狭いため、工事に必要な作業ヤードが確保できず、特に冬期の積雪により工事作業が困難であったことから、事業期間が2年延長となった。						④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価	
事業費(予算)の増加・縮減理由と分析	○概ね、計画の予算で執行できた。							改善措置の必要性	○現在までのところ、改善措置の必要性は認められない。	
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)						今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	B	○冬期間における、安全で円滑な交通を確保するための方策として、当該事業による堆雪帯の設置に加え、ヘアピンカーブの解消や急勾配区間の改良が必要な箇所があり、交通管理者・須坂市・地元地区と協議しながら検討したい。 ○上記のようなハード対策とは別に、凍結防止剤の散布の強化、道路情報表示板による注意喚起を進めている。 ○道路状況の改善により、ノーマルタイヤでの通行・走行速度の上昇、無理な追い越しなどの運転者のモラルの低下が懸念される。	
	直接的効果(定量的・定性的)	○当該事業により、冬期間においても適切な道路幅員が確保出来たため、大型車の立ち往生等の事故件数が減少した。 当該地域での年間平均事故件数 1件 → 0件								
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○事故に伴う通行止め及び渋滞が減少し、安全で円滑な交通が確保された。 1回の事故処理に要する処理時間(通行止めとなる時間) 平均4時間 → 0								
	部局意見	○冬期積雪時の車道の有効幅員を確保するとともに、大型車の立ち往生が減少したことで安全で円滑な交通を確保できた。 ○道路の見通しが良くなり、大型車のすれ違いもスムーズになったが、その反面スピードを出しやすくなったことから、交通安全上の課題がある。								
技術管理室意見	冬期交通の安全確保が図られ、事業の目的を達成している。						県の自己評価	事業目的を概ね達成		